

# ワールド・バリュー・アロケーション Aコース (為替ヘッジあり) (野村SMA・EW向け) / Bコース (為替ヘッジなし) (野村SMA・EW向け)

追加型投信 / 内外 / 株式

## 第7期

(決算日 2023年12月6日)

作成対象期間 (2022年12月7日～2023年12月6日)

第7期末 (2023年12月6日)		
	Aコース	Bコース
基準価額	11,314円	17,465円
純資産総額	1,593百万円	4,666百万円
第7期		
騰落率	2.0%	16.0%
分配金 (税込み)	0円	0円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

### ●受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

「ワールド・バリュー・アロケーション Aコース (為替ヘッジあり) (野村SMA・EW向け) / Bコース (為替ヘッジなし) (野村SMA・EW向け)」はこの度、それぞれ上記の決算を行いました。上記ファンドは、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドへの投資を通じて、主に割安と判断される世界の株式等へ実質的に投資を行い、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、CAマネープールファンド (適格機関投資家専用) への投資も行います。

Aコースにおいては、原則として外貨建資産の為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。Bコースにおいては、原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。

当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

#### 【閲覧方法】

右記<お問い合わせ先>に記載されているホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」メニューから「ファンド・基準価額一覧」(当ファンドが償還した場合は「償還ファンド一覧」)をクリック⇒当該一覧から当ファンドのファンド名称をクリック⇒運用報告書 (全体版) をクリック

- 運用報告書 (全体版) は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## アムンディ・ジャパン株式会社

〒105-0021 東京都港区東新橋1丁目9番2号

#### <お問い合わせ先>

お客様サポートライン：050-4561-2500

受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページアドレス：<https://www.amundi.co.jp/>

< 3285726・3320799 >

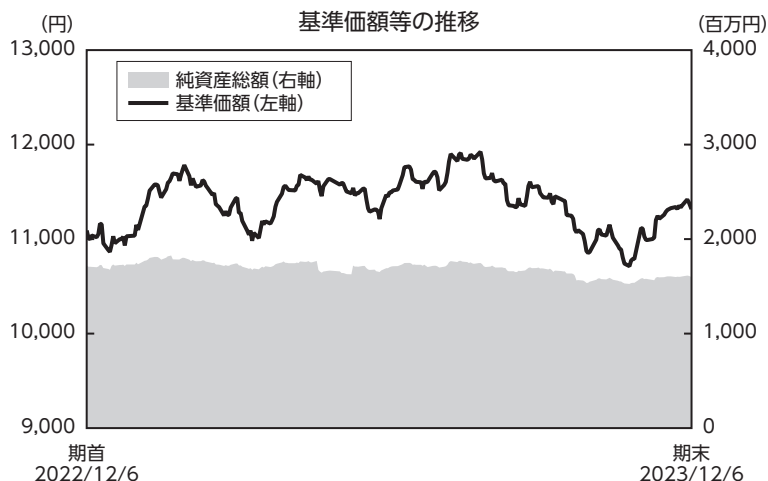
## 運用経過

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

#### 基準価額等の推移

第7期首	11,087円
第7期末	11,314円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	2.0%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



#### 基準価額の主な変動要因

##### 上昇要因

- ① 2023年3月以降8月にかけて、インフレ鎮静化やF R B（米連邦準備理事会）による利上げサイクル終了が期待されたこと、および欧州で好調な経済指標が確認されたことなどを背景に、株式市場が上昇したこと
- ② 2023年11月に米国や英国で政策金利が据え置かれ、利上げ停止への期待が高まったこと
- ③ 2023年10月上旬から期末にかけて金価格が上昇したこと

##### 下落要因

- ① 2023年2月から3月にかけて、金融引き締め長期化への懸念や米国や欧州の銀行の信用不安等を背景に株式市場が下落したこと
- ② 2023年9月中旬から10月下旬にかけて、米欧での利上げ継続により金融引き締め局面の長期化が懸念されたことや、米国長期金利の上昇や中東における地政学的リスクの高まりが嫌気されたこと
- ③ 2023年2月および5月から10月初旬にかけて金価格が下落基調となったこと

## ■ Aコース (為替ヘッジあり) (野村SMA・EW向け)

### 1万口当たりの費用明細

項 目	第 7 期 (2022年12月7日 ～2023年12月6日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社)  (受 託 会 社)	33円 (25) ( 4) ( 4)	0.286% (0.220) (0.033) (0.033)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)  (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (そ の 他)	8 ( 3)  ( 1) ( 3) ( 0)	0.070 (0.030)  (0.011) (0.029) (0.001)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	41	0.356	

期中の平均基準価額は11,372円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

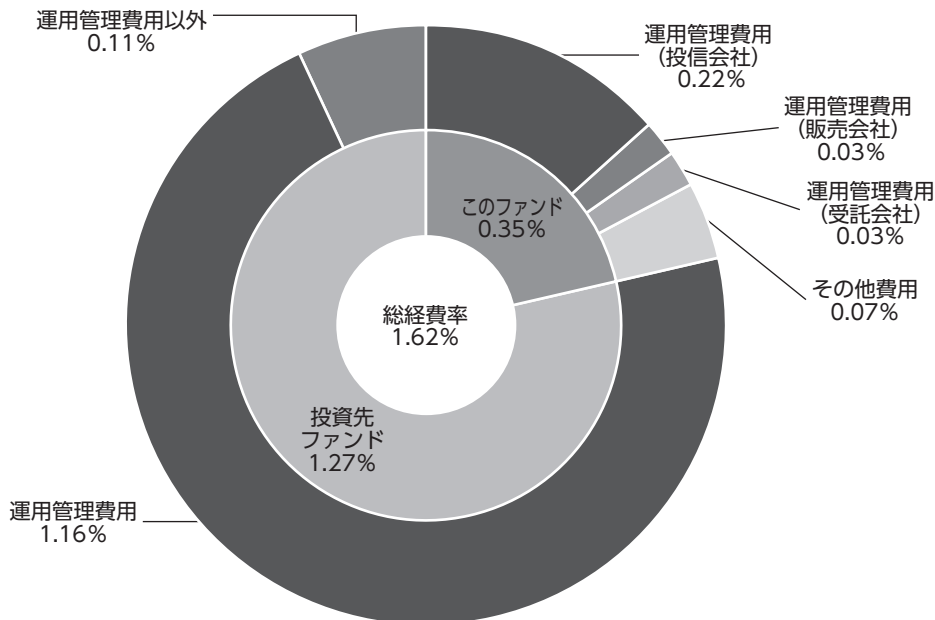
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

### （参考情報）

#### ● 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.62%です。



総経費率 (①+②+③)	1.62%
①このファンドの費用の比率	0.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.16%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.11%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

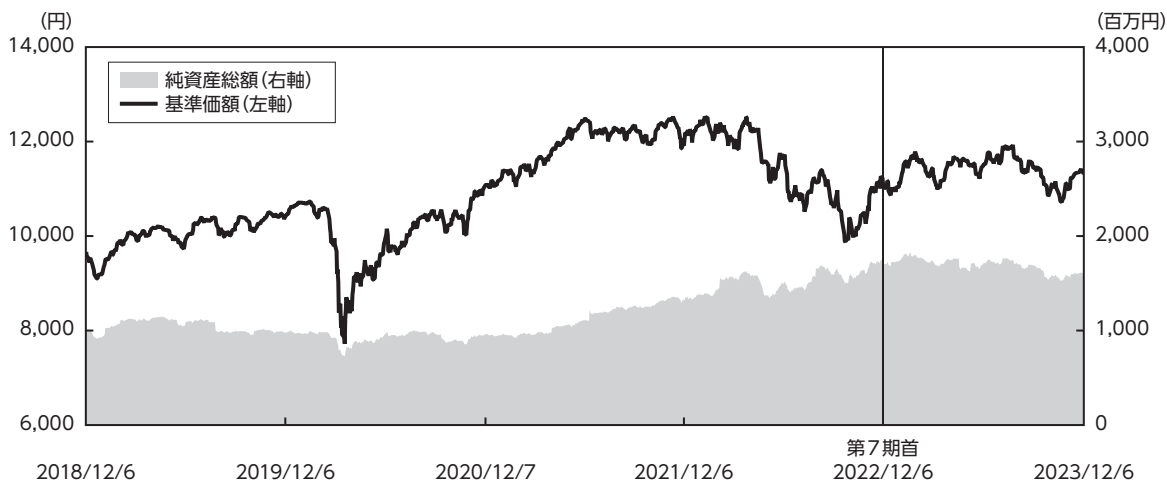
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年12月6日～2023年12月6日）



### 最近5年間の年間騰落率

	2018/12/6 期首	2019/12/6 決算日	2020/12/7 決算日	2021/12/6 決算日	2022/12/6 決算日	2023/12/6 決算日
基準価額 (円)	9,655	10,405	11,073	11,908	11,087	11,314
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	7.8	6.4	7.5	-6.9	2.0
純資産総額 (百万円)	1,014	969	953	1,313	1,713	1,593

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

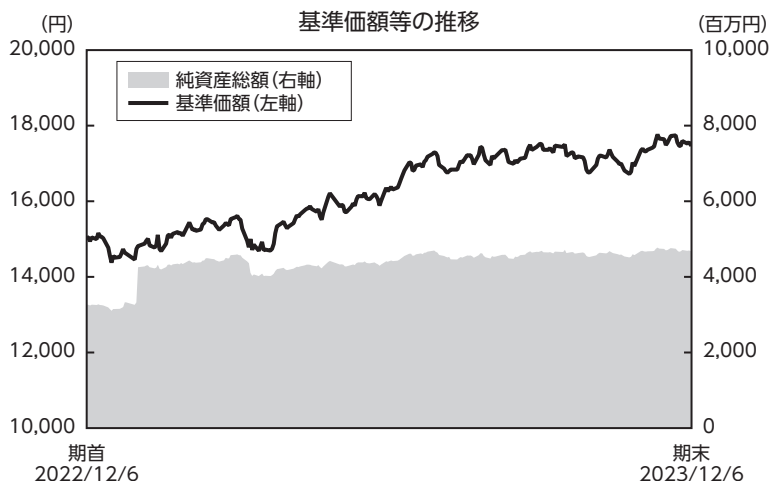
## 運用経過

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

#### 基準価額等の推移

第7期首	15,052円
第7期末	17,465円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	16.0%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



#### 基準価額の主な変動要因

##### 上昇要因

- ① 2023年3月以降8月にかけて、インフレ鎮静化やF R B（米連邦準備理事会）による利上げサイクル終了が期待されたこと、および欧州で好調な経済指標が確認されたことなどを背景に、株式市場が上昇したこと
- ② 2023年11月に米国や英国で政策金利が据え置かれ、利上げ停止への期待が高まったこと
- ③ 2023年10月上旬から当期末にかけて金価格が上昇したこと
- ④ 当期を通じて為替市場において米ドル高・円安となったこと

##### 下落要因

- ① 2023年2月から3月にかけて、金融引き締め長期化への懸念や米国や欧州の銀行の信用不安等を背景に株式市場が下落したこと
- ② 2023年9月中旬から10月下旬にかけて、米欧での利上げ継続により金融引き締め局面の長期化が懸念されたことや、米国長期金利の上昇や中東における地政学的リスクの高まりが嫌気されたこと
- ③ 2023年2月および5月から10月初旬にかけて金価格が下落基調となったこと
- ④ 期初から2022年末にかけて、2023年3月、そして6月末から7月半ばにかけて為替市場において米ドル安・円高となったこと

## ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

### 1万口当たりの費用明細

項 目	第 7 期 (2022年12月7日 ～2023年12月6日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	47円 (36) ( 5) ( 5)	0.286% (0.220) (0.033) (0.033)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用)  (監査費用) (印刷費用) (その他)	4 ( 1)  ( 2) ( 2) ( 0)	0.027 (0.005)  (0.010) (0.011) (0.001)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	51	0.313	

期中の平均基準価額は16,292円です。

(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

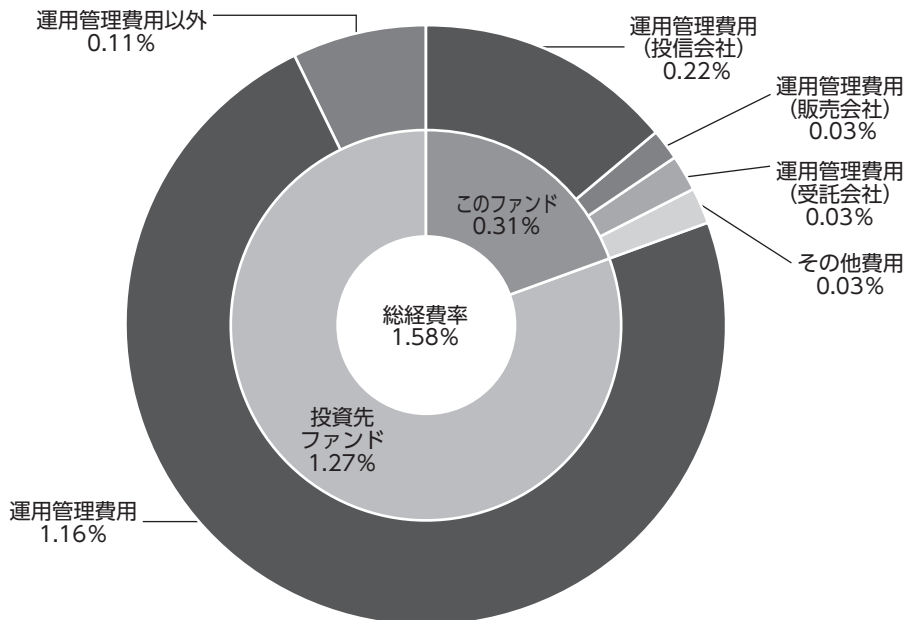
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

### （参考情報）

#### ● 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.58%です。



総経費率 (①+②+③)	1.58%
①このファンドの費用の比率	0.31%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.16%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.11%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

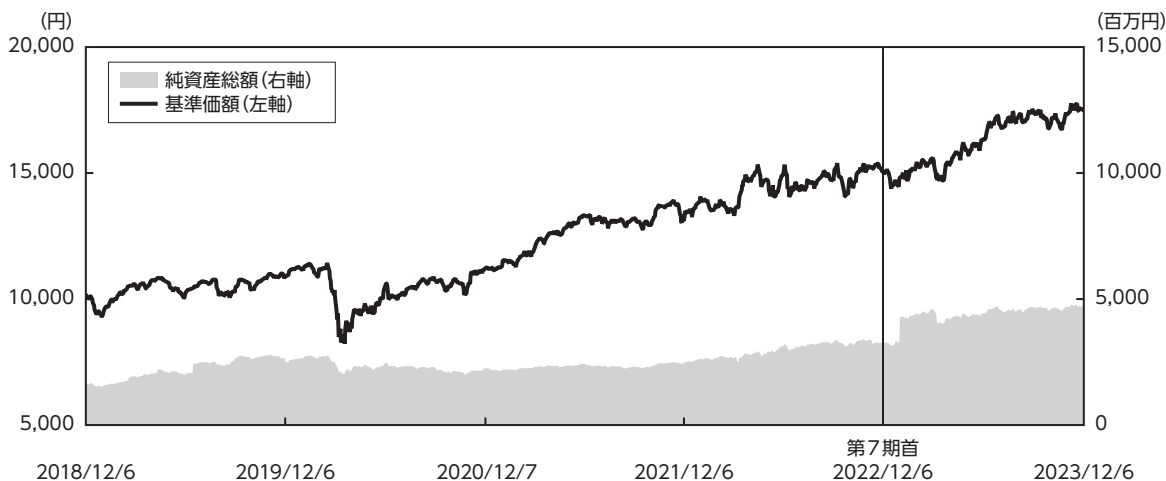
(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。



## ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年12月6日～2023年12月6日）



## 最近5年間の年間騰落率

	2018/12/6 期首	2019/12/6 決算日	2020/12/7 決算日	2021/12/6 決算日	2022/12/6 決算日	2023/12/6 決算日
基準価額 (円)	10,174	10,873	11,210	13,092	15,052	17,465
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	6.9	3.1	16.8	15.0	16.0
純資産総額 (百万円)	1,614	2,452	2,221	2,409	3,254	4,666

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

## 投資環境

### <世界株式市場>

当期の世界株式市場は、値動きをとめないながら推移し、前期末比では上昇して期末を迎えました。期初は、米国や欧州の中央銀行の金融引き締め姿勢の長期化や景気後退への懸念、2022年12月下旬の米国長期金利の上昇が嫌気され、株式市場は下落しました。しかし、2023年に入ると、米欧でのインフレピークアウト見通しが強まったことで利上げペースの減速期待が高まり、上昇に転じました。2月には再び金融引き締め長期化への懸念が再燃し、株式市場は下落基調となりました。また、3月に米国で中堅規模の銀行が相次いで破綻し、欧州でのクレディ・スイス・グループへの信用不安から世界的に金融システムへの不安が広がり、不安定な動きとなりましたが、当局の速やかな対応を受け、市場は落ち着きを取り戻しました。その後は、米国でのインフレ率鈍化により、F R Bによる利上げサイクル終了が期待され、堅調に推移しました。また欧州でも好調な経済指標が追い風になりました。8月上旬以降は、格付け会社による米国国債の信用格付けの引き下げや米国長期金利の上昇、中国の景気後退懸念等により、下落に転じました。さらに米欧での金融引き締めの長期化懸念が強まったことや、原油価格の上昇への懸念から軟調に推移しました。そして10月も、中国やユーロ圏での経済減速や、中東における地政学的リスクの高まりへの懸念、米国長期金利の上昇、米国でのハイテク株の下落等を背景に、下落基調が続きました。11月に入ると、世界株式市場は3ヵ月ぶりに上昇に転じました。米国でF O M C（米連邦公開市場委員会）において2会合連続で政策金利が据え置かれたこと等から利上げ停止への期待が高まり、株式市場は大幅に反発しました。また欧州でも、利下げへの期待から株式市場は上昇しました。期末にかけてはわずかに下落したものの、反発した11月の水準をおおむね維持したまま当期を終えました。

### <金市場>

当期の金価格は期を通じて上昇しました。期初から2023年1月にかけては、2023年初以降の米国長期金利の下落などを背景に上昇基調となりました。2月には、米国長期金利の上昇により一時軟調となりましたが、3月上旬にかけて地政学的リスクの高まりやインフレ率の上昇を受け上昇基調となりました。5月以降9月中旬にかけては上げ下げを繰り返し、米国長期金利の上昇などから9月下旬には大きく下落しましたが、10月初旬に中東情勢の混乱などから上昇に転じました。その後は弱含む場面もあったものの、期末にかけては米国長期金利の下落等により再び上昇に転じて期末を迎えました。

### <為替市場>

当期の米ドル／円相場は、2022年末に日銀が金融政策の修正を発表し、一時円が買われる場面もみられましたが、2023年1月にさらなる日本の金融政策の修正が無かったことから、日本の金利先高観が後退し、再び米ドル優位の展開に戻りました。3月に入り、米国の中堅銀行破綻やクレディ・スイス・グループの経営不安顕在化のニュースを背景に金融システム不安が広がると、質への逃避としての円買いの動きに加え、急激な金利先高観の後退にとめない米ドルは一時売り込まれましたが、金融システム不安が後退すると米ドルは買い戻されました。日銀が金融緩和維持の姿勢を明確に示したことも円安圧力となり、6月末にかけて米ドルは対円で強含みの展開となりました。その後、7月中旬にかけては、米国のインフレ圧力の低下や米景気後退懸念等から、米ドルは一時弱含みました。その後、米ドルは再び上昇に転じましたが、期末にかけては、米国でのインフレ鎮静化の兆しが米金利先高観を後退させ、やや弱含んで当期を終えました。

### <日本短期国債市場>

当期の短期国債市場では、日銀によるマイナス金利政策のもと、T D B（国庫短期証券）3ヵ月物利回りがマイナス圏での推移を継続しました。T D B 3ヵ月物利回りは、マイナス圏で-0.10%から-0.20%を中心に推移しましたが、3月下旬に米欧の一部銀行に対する信用不安が発生した局面や、9月末から10月初めにかけて年末越えの担保差入れ需要が高まった局面では一時的に-0.30%近辺までマイナス幅を拡大させました。

## ポートフォリオ

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資しました。世界の株式等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」を通じて行いました。また、外貨建資産については為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図りました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資しました。世界の株式等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」を通じて行いました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

### <ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド>

当期のファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドは上昇（米ドルベース）しました。国別では米国、日本、メキシコのプラスの影響が相対的に大きくなりました。セクター別では、コミュニケーション・サービスおよび情報技術のプラスの影響が相対的に大きくなりました。金関連資産もプラスに寄与しました。当期は、株式市場が値動きをとめないながら上昇するなか、株価が想定する本源的価値を反映していると判断した銘柄などを売却するとともに、割安と判断できる新たな銘柄を購入しました。

（ファースト イーグル インベストメント マネジメント）

### <CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）>

当期、主として12ヵ月以内に償還を迎える地方債への投資により、安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

## ベンチマークとの差異

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

## 分配金

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

### 分配原資の内訳

（単位：円・1万口当たり・税込み）

項目	第7期
	(2022年12月7日～2023年12月6日)
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,527

・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

### 分配原資の内訳

（単位：円・1万口当たり・税込み）

項目	第7期
	(2022年12月7日～2023年12月6日)
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	7,464

・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは引き続き、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資します。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

当ファンドは引き続き、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資します。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

### <ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド>

私たちは、最も深刻な投資のリスクは投資元本の永続的な毀損であり、そのリスクの主たる源泉は割高な証券への投資であると考えます。私たちは、予期せぬ事態が生じて、回復不可能な損失を回避できるような、十分に割安な水準で投資することを重視し、個別銘柄の株価が私たちの考える本源的価値を十分に下回る場合にのみ、投資します。十分に割安と判断できる投資機会に限られる局面では、無理に投資せずに現金等を保持します。現金等は個別銘柄単位で十分に割安と判断できる投資機会を特定した段階で、投資資金に充当するものと位置付けています。また、予期せぬリスクに対するヘッジ手段、および中長期的に資産の実質的価値の維持を目指す手段として、金関連資産を一定比率保有し続ける方針です。私たちは引き続き、短期的な市場動向や市場予測に頼るのではなく、ボトムアップによる銘柄選択を通じて、競争力を持続できるような質の高い事業や希少な資産を有すると考えられる企業に分散投資することで、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求し、投資信託財産の長期的な成長を目指した運用を継続する方針です。

（ファースト イーグル インベストメント マネジメント）

### <CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）>

安全性重視の観点から、12ヵ月以内に償還を迎える債券への投資により安定的な運用を行います。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

## お知らせ

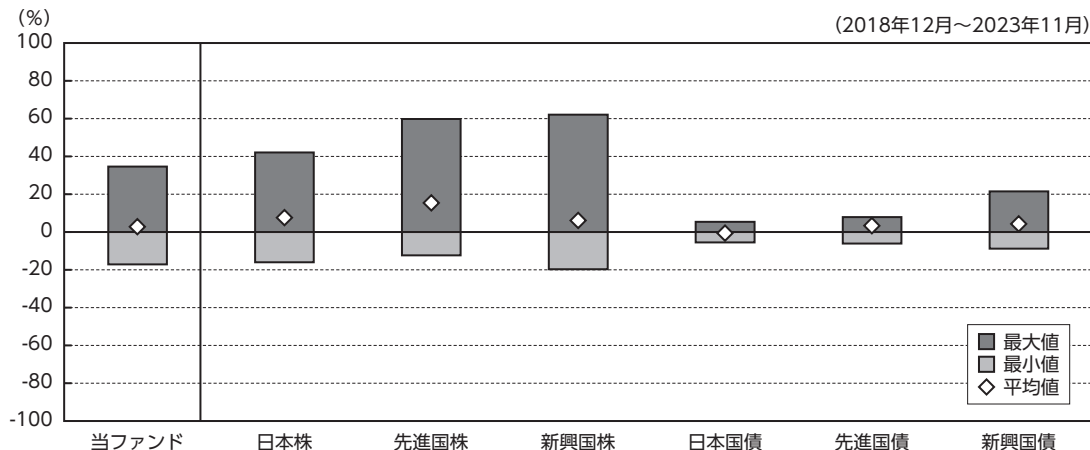
2023年5月30日付で、当ファンドが主要投資対象とする外国籍投資信託「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」の成功報酬算出方法を変更いたしました。

## ファンドの概要

	Aコース（為替ヘッジあり） （野村SMA・EW向け）	Bコース（為替ヘッジなし） （野村SMA・EW向け）
商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2017年8月25日から2028年2月25日までです。	
運用方針	ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式等へ実質的に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）への投資も行います。	
	原則として外貨建資産の為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。	原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。
主要投資対象	ワールド・バリュー・アロケーション	ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）
	ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド	世界各国の株式等
	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	本邦通貨表示の短期公社債
運用方法	①ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドへの投資を通じて、主に割安と判断される世界の株式等へ実質的に投資を行い、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
	②ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドへの組入比率は、原則として高位を保ちます。	
	③原則として外貨建資産の為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。	③原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。
分配方針	毎決算時（年1回、原則毎年12月6日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

## 当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）



### 当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	2.8	7.6	15.4	6.2	-0.6	3.3	4.3
最大値	34.6	42.1	59.8	62.1	5.4	8.0	21.5
最小値	-17.1	-16.0	-12.4	-19.7	-5.5	-6.1	-8.8

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 上記は、2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

### 各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

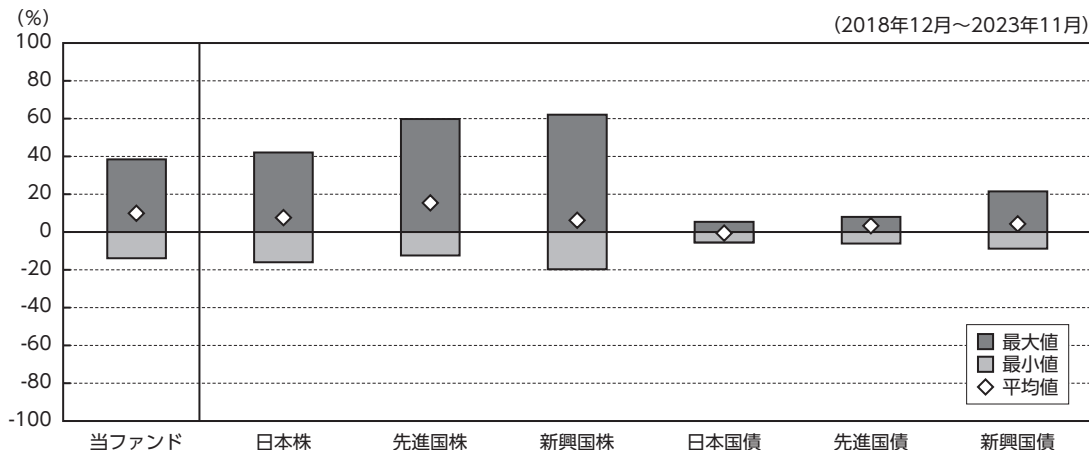
※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金（税込み）が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）



### 当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	9.9	7.6	15.4	6.2	-0.6	3.3	4.3
最大値	38.4	42.1	59.8	62.1	5.4	8.0	21.5
最小値	-13.9	-16.0	-12.4	-19.7	-5.5	-6.1	-8.8

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 上記は、2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

### 各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金（税込み）が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。



## ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

#### ■ Aコース（為替ヘッジあり）（野村SMA・EW向け）

#### 組入ファンド

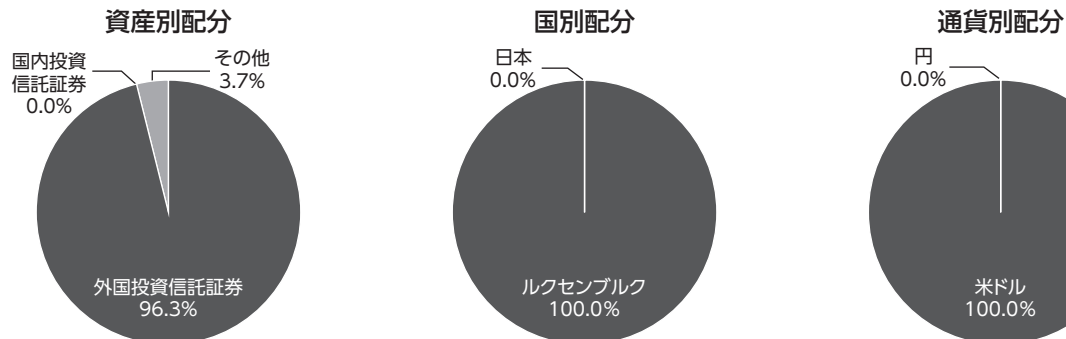
2023年12月6日現在  
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド	米ドル	96.3%
2	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	円	0.0%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

### 種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

### 純資産等

項目	第7期末 2023年12月6日
純資産総額	1,593,539,825円
受益権総口数	1,408,525,528口
1万口当たり基準価額	11,314円

※当期間（第7期）中における追加設定元本額は331,566,853円、同解約元本額は468,543,818円です。

## ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

#### ■ Bコース（為替ヘッジなし）（野村SMA・EW向け）

#### 組入ファンド

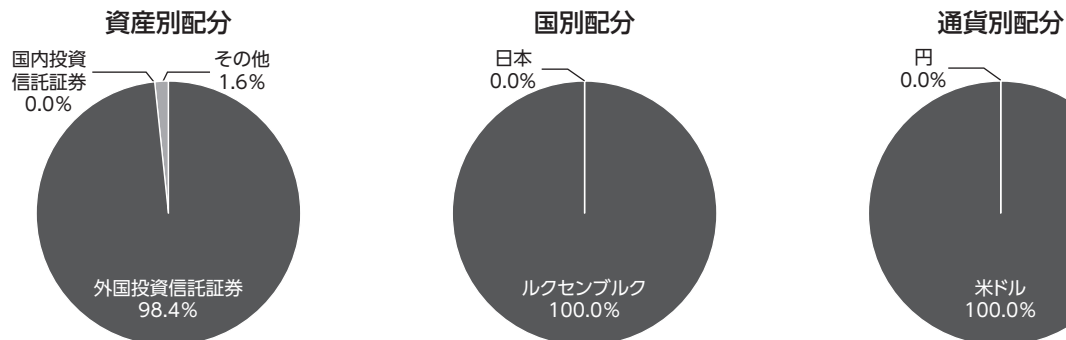
2023年12月6日現在  
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド	米ドル	98.4%
2	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	円	0.0%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

### 種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

### 純資産等

項目	第7期末 2023年12月6日
純資産総額	4,666,382,786円
受益権総口数	2,671,853,308口
1万口当たり基準価額	17,465円

※当期間（第7期）中における追加設定元本額は1,116,539,508円、同解約元本額は606,824,656円です。

## 組入ファンドの概要

### <ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド>

決算日：2023年2月28日

(計算期間：2022年3月1日～2023年2月28日)

「基準価額の推移」は組入シェアクラスの内容ですが、他の開示情報につきましては、組入ファンド全体の内容を掲載しています。

## 基準価額の推移（組入シェアクラス）



## 組入上位10銘柄

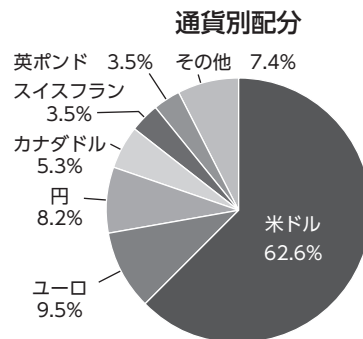
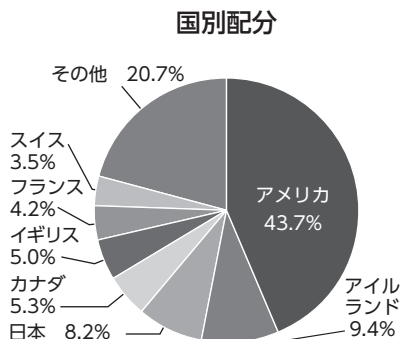
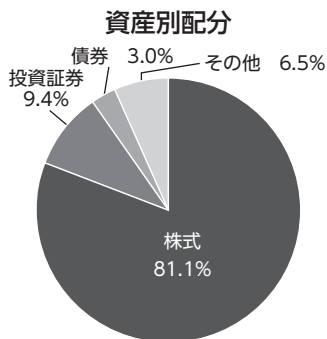
2023年2月28日現在  
(組入銘柄数：129銘柄)

	銘柄	通貨	発行国	比率
1	AMUNDI PHYSICAL GOLD ETC	米ドル	アイルランド	4.0%
2	ORACLE CORP	米ドル	アメリカ	2.9%
3	DB PHYSICAL GOLD ETC	米ドル	ジャージー	2.7%
4	ISHARES PHYSICAL GOLD ETC	米ドル	アイルランド	2.7%
5	SLB	米ドル	キュラソー	2.5%
6	EXXON MOBIL CORP	米ドル	アメリカ	2.4%
7	COMCAST CLASS A	米ドル	アメリカ	1.9%
8	CIE FINANCIERE RICHEMONT SA	スイスフラン	スイス	1.7%
9	C.H. ROBINSON WORLDWIDE	米ドル	アメリカ	1.7%
10	HCA HEALTHCARE RG REGISTERED SHS	米ドル	アメリカ	1.7%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

## 種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

## 1万口当たりの費用明細

該当情報の取得ができないため、掲載はしていません。

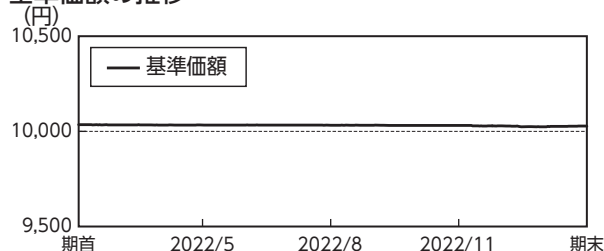
## 組入ファンドの概要

### <CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)>

第16期 決算日：2023年2月15日

(計算期間：2022年2月16日～2023年2月15日)

### 基準価額の推移



### 組入銘柄

2023年2月15日現在  
(組入銘柄数：2銘柄)

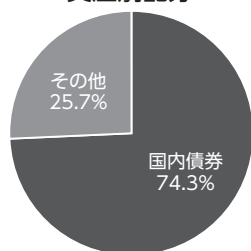
	銘柄	種別	比率
1	第128回共同発行市場公募地方債	地方債	53.1%
2	第375回大阪府公募公債(10年)	地方債	21.2%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

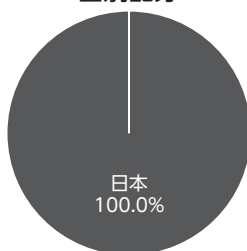
(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

### 種別構成

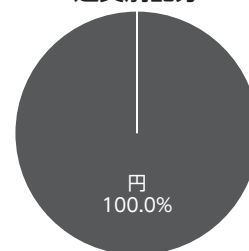
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

### 1万口当たりの費用明細

項 目	第16期 (2022年2月16日 ～2023年2月15日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	1円 (1) (0)  (0)	0.011% (0.009) (0.001)  (0.002)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	1 (1)	0.007 (0.007)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	2	0.018	

期中の平均基準価額は10,031円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 指数に関して

### ◇「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

#### ●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXの指数値およびTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

#### ●MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

#### ●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

#### ●NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社（以下「NFRIC」という。）が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利はNFRICに帰属します。

#### ●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建のエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。





**Amundi**  
**ASSET MANAGEMENT**  
アムンディ アセットマネジメント